案件 4

■住民意識調査の結果概要

1 調査の目的

桜井市第５次総合計画の進捗状況を調査し、次期総合計画の策定にあたり、市民の市政に対す意向（これまでの取組みの達成度、今後の取組みに対する重要度）を把握することを目的にアンケート調査を実施

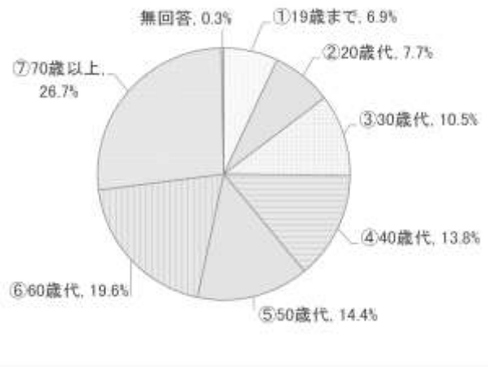
2 調査の概要

調査地域	桜井市全域
調査対象	市内に居住する 16 歳以上の男女
抽出方法	住民基本台帳から 3,000 人を無作為抽
配布対象数	3,000 人
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査時期	平成 30 年 10 月１日～平成３１年１月 21 日
回収数（回収率）	1,254 通（41.8%）

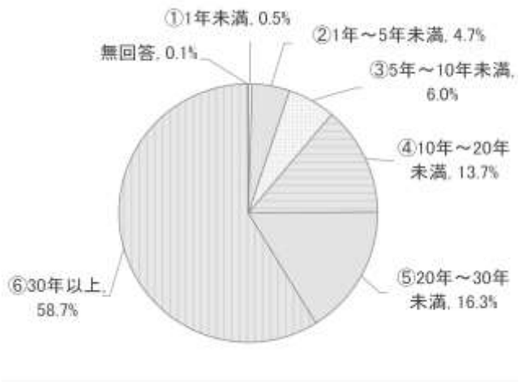
3 調査結果

3.1 回答者の属性

- ●性別構成比は、「男性」が 41.2%、「女性」が 58.4%、「不明」が 0.4%
- ●年齢構成比は、「60 歳代」が 19.6%、「70 歳以上」が 26.7%で回答者のおよそ半数が 60 歳以上
- ●中学校区の構成比は、「桜井」が最も高く 38.6%、続いて「大三輪」が 23.8%、「桜井西」が 23.3%、「桜井東」が 13.8%
- ●職業構成比は、「勤め人（常勤）」が最も高く 29.1%、続いて「無職」が 23.4%と高い
- ●居住年数の構成比は、「30 年以上」が最も高く 58.7%と過半数を超えている
- ●家族構成の構成比は、「二世代世帯（親と子）」が最も高く 51.4%と過半数を超えている



年齢構成

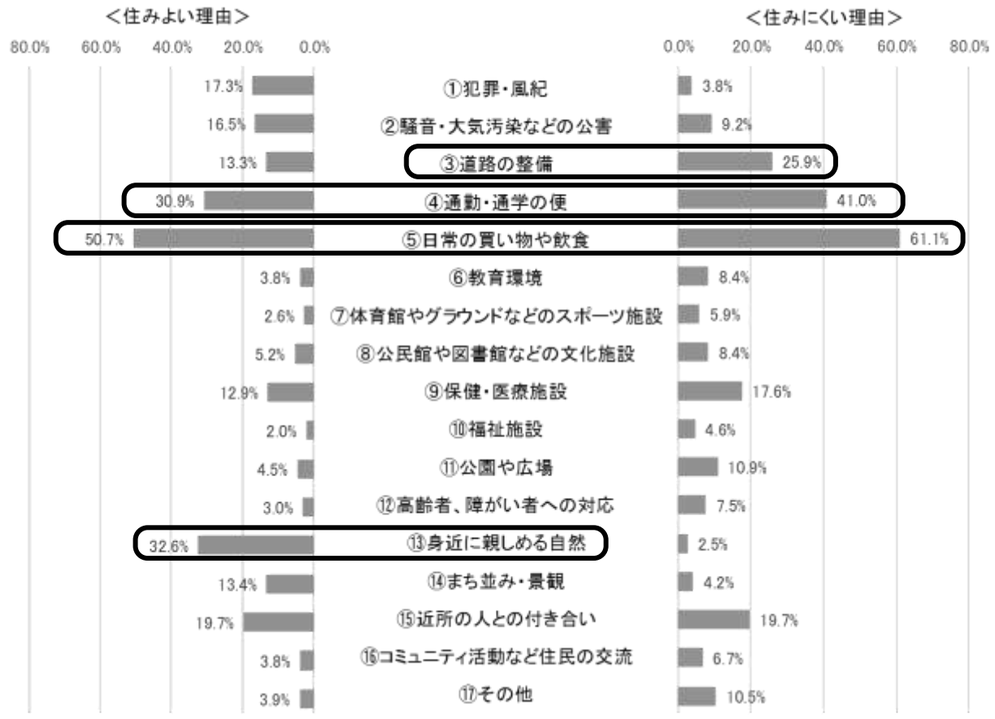


居住年数

3.2 住みよさ･住みにくさ

- ●まちの住みやすさの構成比は、「大変住みやすい」が 12.5%、「まあまあ住みやすい」が 67.2%で約８割の回答者が住みやすいと回答
- ●平成 28 年度調査と比べ「まあまあ住みやすい」が 4.2%増、「どちらかといえば住みにくい」が 3.0%減
- ●桜井西で「住みやすい」、桜井東で「住みにくい」と回答した方が全体と比較して高い傾向
- ●30 歳代で「住みやすい」と回答した方が全体と比較して高い傾向
- ●住みよい理由は「日常の買い物や飲食」「身近に親しめる自然」「通勤・通学の便」、住みにくい理由は「日常の買い物や飲食」「通勤・通学の便」「道路の整備」
- ●「通勤・通学の便」は桜井（特に桜井小学校区）では住みよい理由に選択が高い一方、三輪では住みにくい理由に選択が高い
- ●桜井（桜井小学校区外）では他地区に比べ「道路の整備」、「日常の買い物や飲食」、桜井西、大三輪では「道路の整備」を住みにくい理由に選択が高い

住みよさ・住みにくさ

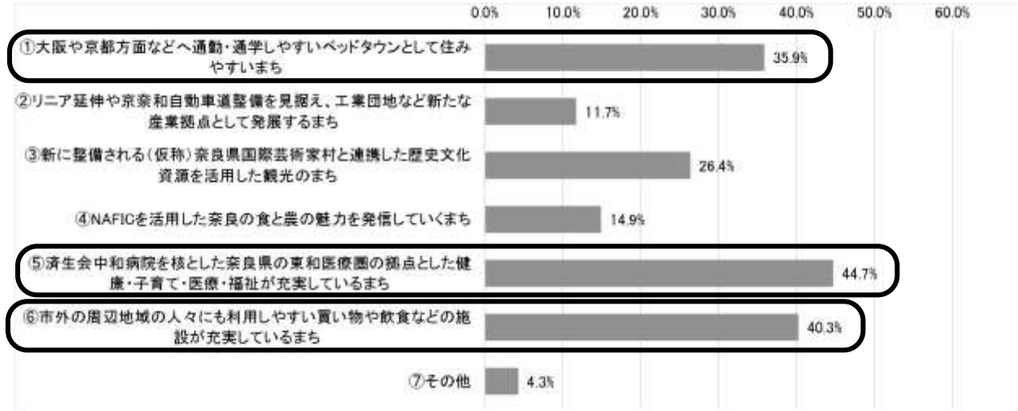


住みよい理由・住みにくい理由（全体）

3.3 桜井市の将来像

1) 広域的な視点からみた桜井市の姿

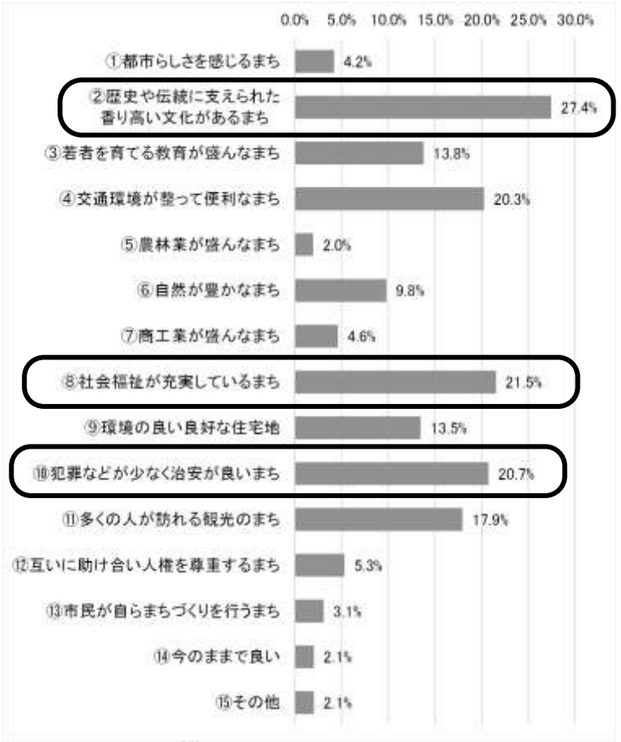
- 広域的な視点からみた桜井市の姿は、「済生会中和病院を核とした奈良県の東和医療圏の拠点とした健康・子育て・医療・福祉が充実しているまち」「市外の周辺地域の人々にも利用しやすい買い物や飲食などの施設が充実しているまち」「大阪や京都方面などへ通勤・通学しやすいベッドタウンとして住みやすいまち」
- 特に桜井では、「市外の周辺の人々にも利用しやすい買い物や飲食などの施設が充実しているまち」、大三輪では「芸術村と連携した歴史文化資源を活用したまち」が高い



桜井市の将来像（広域的）

2) 桜井市がめざすべきまちの姿

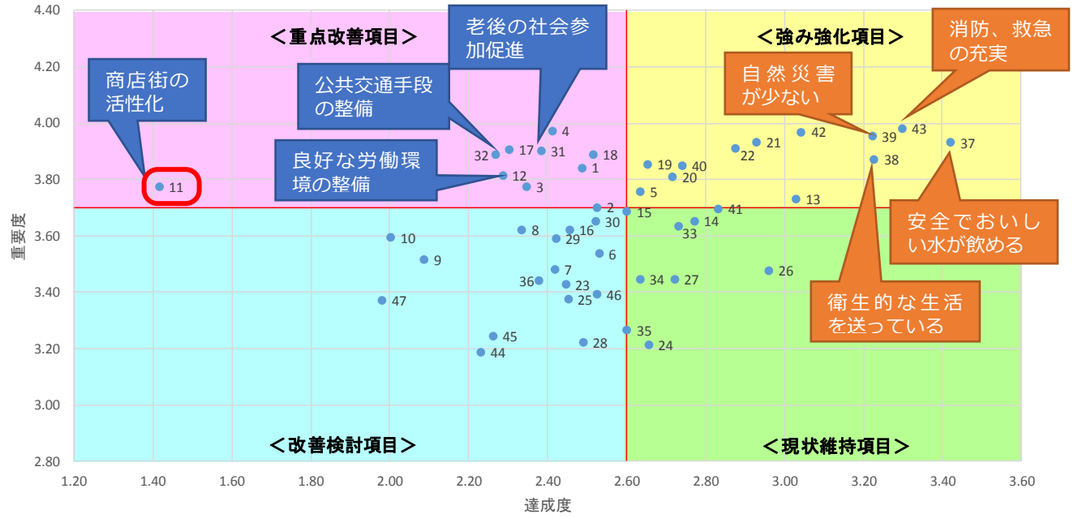
- 現在の本市のイメージは、「有名な神社やお寺のあるまち」が 57.3%と最も高く、続いて「そうめん産業の盛んな町」39.6%、「歴史と文化財に囲まれたまち」29.7%で桜井は「歴史と文化財に囲まれたまち」、大三輪は「山の辺の道があるまち」を選択した割合が高い
- 本市がめざすべきまちの姿は、「歴史や伝統に支えられた香り高い文化があるまち」「社会福祉が充実しているまち」「犯罪などが少なく治安が良いまち」が高い
- 10～30 代は「交通環境が整って便利なまち」、10～40 代は「犯罪が少なく治安のよいまち」、50 代は「香り高い文化のあるまち」、60 代以上は「社会福祉が充実しているまち」の割合が特に高い



めざすべきまちの姿

3.4 本市における生活の状態（生活像）について

- 今後最も重点的に取り組むべき施策は商店街の活性化

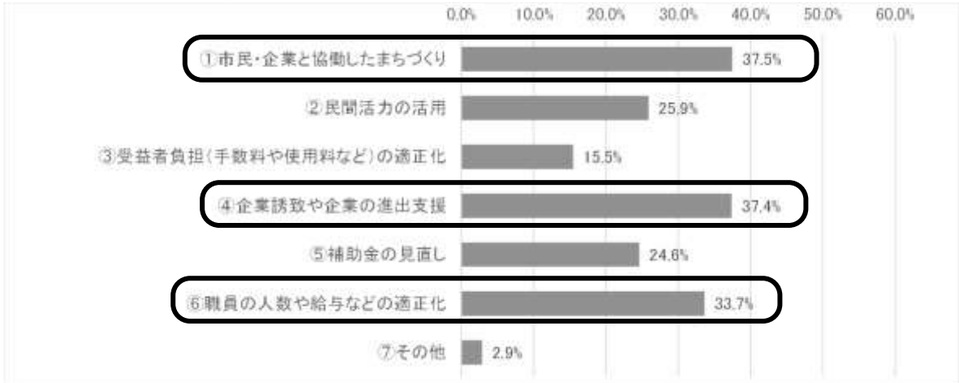


桜井市（全域）ポートフォリオ

1	市民・事業者・市役所が協力し合ってより良い地域づくりに取り組んでいる
2	市民が協力しあいながら、積極的に地域の活動に取り組み、活気のあるまちづくり活動をしている
3	市民にとって最適な行政経営が行われ、社会情勢の変化や地域課題に柔軟に対応している
4	市民は、公平な負担のもとに税金が適切に活用されることにより、必要な行政サービスを受けている
5	市民は行政事務の改善と効率化及び適正な職員の対応により、快く行政サービスを受けている
6	市民や行政が多様な情報手段を有効に活用し、情報の受発信を積極的に行っている
7	周辺市町村と連携し、効率的な行政活動が行われている
8	市民が桜井市の歴史・食・文化を理解し、その魅力を発信することで、来訪者は観光しながら地域との交流を楽しんでいる
9	農林業がいきいきと営まれ、新たな魅力（ブランド）が生まれ、職業として選択できる魅力ある農業が実現されている
10	地場産業とともに新たな産業が根付き、他の産業とも連携した地域の産業の振興が図られ、人材が確保されている
11	人が集まりにぎわい、商店街が活気にあふれている
12	市民が良好な労働環境を得て、安心しては働くことができる
13	市民自らが健康に関心を持ち、自己の健康維持に努め、健康で長生きしている
14	市民が地域のなかでともに支え合って安心してくらしている
15	障がいを持つ人が安心して、地域でともに生活している
16	誰もが各自の能力を活かしながら、経済的にも精神的にも自立して生活している
17	老後も無理なく社会参加しながら、経済的な不安を感じることなく暮らしている
18	高齢者が健康面でも精神面でも安心して暮らしている
19	子育てに関する相談や支援が受けられ、安心して子育てが出来る
20	未就学年齢児が、それぞれの子どもにあった保育・教育が受けられる
21	市民が、その人にあった適切な医療を受けられる
22	子どもたち一人一人が、安心・安全で充実した学校教育が受けられる
23	生涯を通して様々な学習機会が用意されており、そこで得た学習成果をまちづくりの活動に活かしている
24	市民がスポーツに積極的に参加し、生きがいを持って暮らしている
25	青少年が地域のなかでいきいきと学び、活動している
26	文化財等が、適切に保存され、歴史を学ぶ市民の財産として活用されている
27	人権を尊重し、一人一人の立場や価値観を認め合って生活している
28	多様な交流が行われ相互理解がなされた中で市民が暮らしている
29	市民一人一人に環境を守る意識が浸透している
30	市・市民・事業者・滞在者が協働し、廃棄物やエネルギーなどの資源が無駄なく活用されている
31	道路の環境整備が行き届き誰もがどんな状況においても移動に問題がない
32	公共交通手段の整備により誰もが問題なく市内を移動することができる
33	市民はそれぞれの暮らしに必要な住環境のもと、安心して快適に生活している
34	市民は自分のまちの良さを自覚しており、良好な景観が守られている
35	日常的にみどりとふれあい、屋外で余暇を楽しんでいる
36	適正な土地利用がなされ、暮らしの環境も自然環境も良好に保たれている
37	いつでも、安全でおいしい水が飲める
38	水質汚濁が防止され、市民は衛生的な生活を送っている
39	市民は、自然災害による影響が少なく快適で安心な環境で暮らしている
40	自然及び人為的災害に対する施設や情報、活動体制が充実している
41	交通事故防止の取り組みが充実し、市民が安全に生活している
42	犯罪がなく、子どもから大人まで安心して生活できる
43	消防、救急が充実し、市民が安心して暮らしている
44	大都市圏から「U・I・Jターン」など移住・定住してきている
45	中心市街地と地域拠点が相互に補完しあうコンパクトな都市が形成されている
46	中山間地域で誰もが安心・安全に暮らしている
47	空き家の利活用が進み、移住してきた方の受け皿となっている

3.5 これからのまちづくりについて

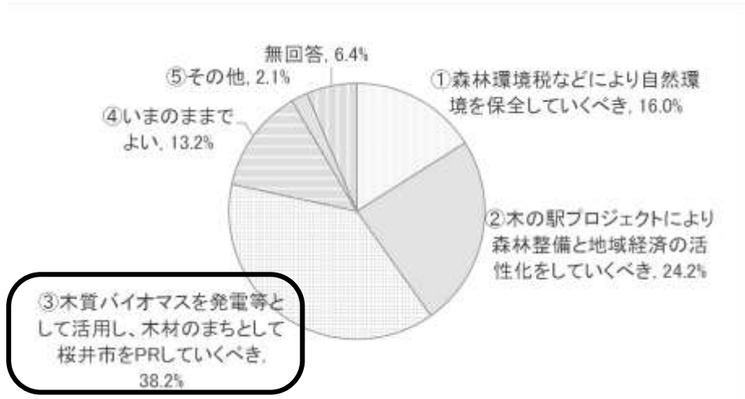
●本市が優先的に取組むべき項目は、「市民・企業と協働したまちづくり」「企業誘致や企業の進出支援」「職員の人数や給与などの適正化」



優先的に取組むべき項目

3.6 桜井市が取り組むべき環境対策

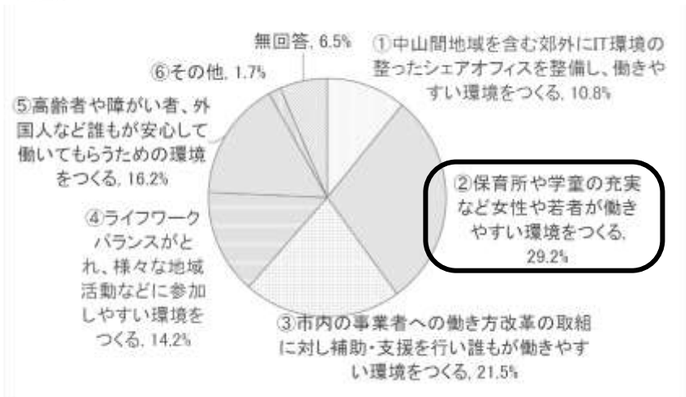
●桜井市が取り組むべき環境対策は、「木質バイオマスを発電等として活用し、木材のまちとして桜井市をPRしていくべき」「木の駅プロジェクトにより森林整備と地域掲載の活性化をしていくべき」



環境対策

3.7 桜井市が取り組むべき働き方改革の推進

●働き方改革の推進について重要な項目は、「保育所や学童の充実など女性や若者が働きやすい環境をつくる」「市内の事業者への働き方改革の取組みに対し補助・支援を行い誰もが働きやすい環境を作る」

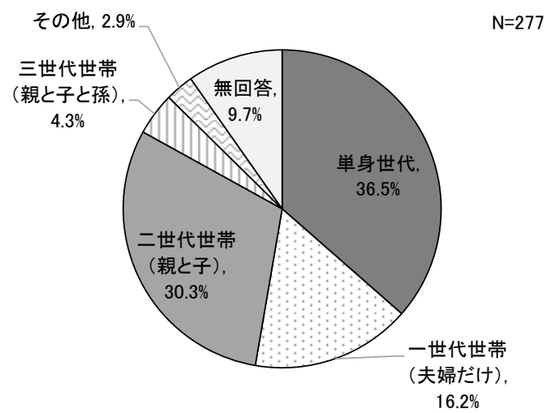


働き方改革

■桜井市移住・定住に関する転入目的等アンケート調査の結果概要

1 家族の構成

●単身世帯が 36.5%と最も多く、次いで二世代世帯（親と子）が 30.3%、一世代世帯（夫婦だけ）が 16.2%

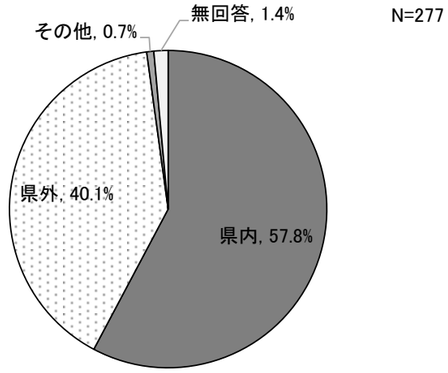


家族構成

2 転入前の住まい

●県内が 57.8%と最も多く、県外が 40.1%

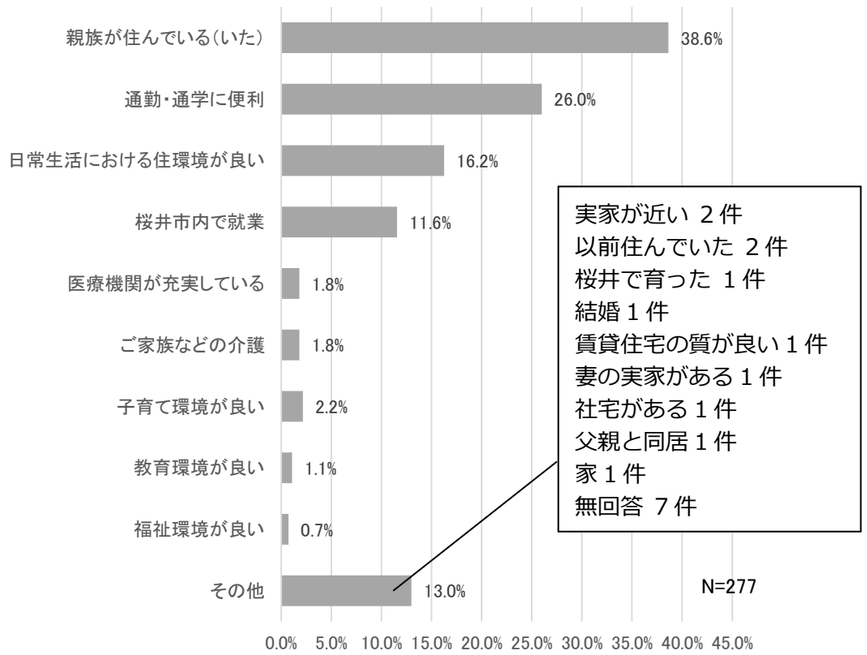
●県内では橿原市が 24.4%と最も多く、県外では大阪府が 30.6%で最も多い



転入前の住まい

3 桜井市への転入理由

●親族が住んでいる（いた）が 38.6%と最も多く、次いで通勤・通学に便利が 26.0%、日常生活における住環境が良いが 16.2%



転入の理由

案件 5

■有識者会議の開催結果概要

1 開催の目的

学識経験者を始めとする幅広い観点から次期総合計画に求められる事項について検討することを目的に開催

2 開催日と議題

開催日	議　題
10/24	『桜井市の将来展望について』 •桜井市を取り巻く外部環境、内部環境を整理したうえで、桜井市のめざすべき 10 年後の姿に関する意見交換
11/28	『産業振興について』 •桜井市として今後 10 年間で注力すべき産業振興に関する意見交換
12/26	『市民生活の利便性の確保について』 •桜井市として今後 10 年間の市民生活の在り方に関する意見交換

3 委員

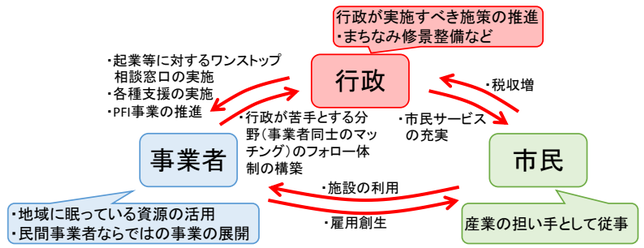
堀井委員、郡山委員、卜部委員、清水委員、一柳委員

4 有識者会議の結果概要

4.1 今後の桜井市のまちづくりに向けた意見の総括

- 桜井市のウリは何か、何を目指すのか、次世代に何を残すのか、という今後重点的に取組むべき方向（キラリと光る○○、○○日本一 etc）を示すことが求められる。
- 財源の減少、施設の老朽化、少子高齢化、自然災害が懸念される中で、投資的経費が確保できない。そのため、優先的に実施すべきことを決め、メリハリのある計画とすることが求められる。
- この 10 年間で実施してきた事業を総括（何ができて、何ができていないのか）したうえで、次期総合計画を策定することが重要である。
- 民間主体の動きを活性化させるためには、ソフト事業のみならず行政主導によるハード整備（行政による仕掛けづくり）も必要である。
- 県との包括協定のもとで進めている各拠点での取組みを核としたまちづくりを今後も進めるべきである。
- 地域内でお金が循環されるような仕組みづくりが求められる。
- 最新の情勢を踏まえた計画とすることが重要となる。特に国連が推進する持続可能社会（SDGs）の動きは今後重要となる。
- 東京・大阪等の都市部へのヒト・モノ・カネの流出が進む中で、桜井市の強みを活かした東西・南北での広域連携（周辺自治体との連携）が求められる。

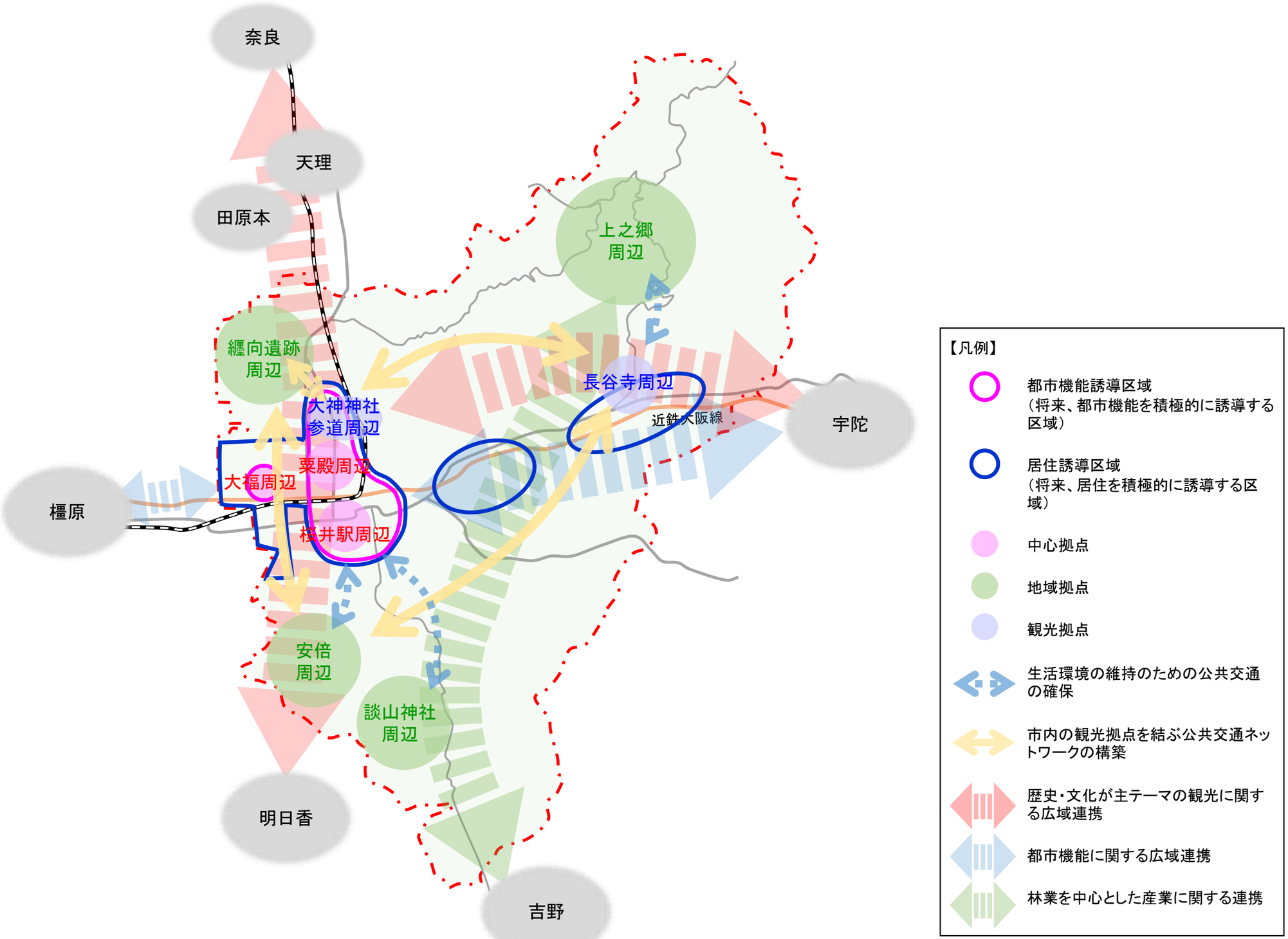
4.2 桜井市が目指すべき方向性に関する具体意見

都市の活性化のためのサプライチェーンの構築	•歴史文化構想（神なびの里）、ひだまり政策（健康長寿都市）の延長線上にある「神なびの里健康長寿都市」の構築 •地域資源の活用による地域にお金が落ちる仕組みづくりの構築による持続可能な社会の形成 
持続可能な地域社会の構築	•地方自治体の役割として、福祉、環境、文化、まちづくり等のローカルな分野がある。地方自治体が本来の「自治」の主旨から、市民ニーズを把握し、協働しながら、行政としての目的・役割を果たす。 •核家族化の増加という背景のもと、地域コミュニティの役割が重要となる。また、社会の担い手として、伝統的な地域コミュニティのみならず、新しいテーマコミュニティ（自発的に責任を果たそうと行動する「市民（NPO、ボランティア団体など）」）が重要となる。これにより、「新しい社会システム（行政と市民の協働、住民自治、地方分権等）」が実現する。 •健康・文化・環境・生活支援など地域に根差した分野では、行政の責任範囲の明確化と自助・互助・共助・公助（行政の補完性原則）に基づく第三セクター（新しい公共）の考え方が重要となる。 •地域資源※を活かした循環型の地域経済の構築　※人的資本、金融資本、社会資本、公的資本
地域資源を活かした観光交流振興	•歴史文化資源（重要な潜在資源等）を活かした新たな切り口での観光振興（雄略天皇に係る日経新聞の小説連載を契機とした仕掛けづくりなど） •景観の魅力の活用（拠点＋道程の景観、面的・全体的な景観など）（そこに来て見て触れてこそわかる、現場・現物の価値の重要性） •コミュニティバスやリムジンバスなどの事業者との連携による多武峰・大神神社・長谷寺の 3 拠点を結んだ公共交通機関のネットワークの構築 •体験型や宿泊型、町並み整備などを通じて桜井のまちの魅力をつくっていくような観光産業のブランド化 •「おもてなし」に関する取組みの推進（民間事業者や市民が主体的に動く動機となる） •コンパクトシティの形成に向けた取組みと「観光」を連携させることによるまちづくりの推進
農業振興	•里山ビジネスの展開（休耕地・空き家活用会社の設立、自家栽培青果の活用） •ガストロノミーツーリズムの推進（NAFIC、里山オーベルジュ） •野菜工場（人材不足の路地農業等への対応、大規模ハウス生産、焼却場の余熱利用も） •農業の 6 次産業化
林業振興	•木質バイオマスを契機とした木材産業の活性化 •森林環境税の導入による林業の振興と新たな産業創出 •地域の木材の積極的な活用 市内での住宅整備の際に地域の木材を活用→景観の改善とともに桜井独自の取組み（桜井市内に入ると木を活かした住宅があるなど）としてのアピールに繋げる。
工業振興	•中和幹線沿道等への企業立地
自然環境保全の推進	•自然を大切にすべきである。「里山」の考え方（自然があり、昆虫が住み、獣が住んでいるような循環のロケーションが体験できるような場所）が重要である。
中山間地域の振興	•桜井東中学校区や大三輪中学校地区の中山間地域については、アンケート結果からも住みにくいという意見が多く、上之郷で実施したようなインターネットの環境整備等による小さな拠点の形成（利便性の向上） •新技術等を活かした展開（中山間地域等の課題を補う自動運転のコミュニティバス、ドローンによる宅配、市役所の AI 化と余剰人員の森林レンジャー化 etc）
市民生活向上や賑わい創出に資する取組みの強化	•市民生活を豊かにする（経済の活性化や交流機会の創出）ための広場・新拠点（新庁舎の広場、ひだまりなど）づくり •都市住民をターゲットとした NAFIC に関連する研究所やフランス料理レストランの整備によるゆっくり週末を過ごすための交流拠点づくり •エルトでの取組みのように女性の社会進出を促進するような社会の構築 •NAFIC など行政主導の取組みと同時に地域の方を巻き込む（NPO や広い関係者含む、外部からのやる気のある人の発掘と連携促進）
新技術の活用	•次世代モビリティの導入による賑わい創出 •AI や IOT などを先取りしたまちづくり（ハードからソフトへの転換）

■桜井市の現状分析（SWOT 分析）

<table>
<tr><th></th><th></th><th colspan="2">機会（O）</th><th>脅威（T）</th></tr>
<tr><td rowspan="4"></td><td rowspan="4"></td><td colspan="2">•新たな自治体行政への転換（スマート自治体の実現、都道府県・市町村の二層制の柔軟化など）による行政経営の効率化【地域経営】
•民間活力の導入促進【産業】
•インバウンド観光の進展【産業】
•環境に対する意識の高まり（パリ協定への対応、再生可能エネルギーへの転換の振興）【環境】
•地方創生・地域再生への取組みの推進（県とのまちづくり協定による拠点の形成）【生活・都市】
•コンパクトシティ形成に向けた動きの加速化【生活・都市】</td><td>•地球規模で頻発する異常気象や大規模地震の発生による災害リスクの高まり【環境】【生活・都市】</td></tr>
<tr><td>高度情報化の進展</td><td>•AI、IoT 等の技術の進歩、Society5.0 の進展による生産の効率化の推進【産業】</td><td>•雇用機会の喪失【産業】</td></tr>
<tr><td>働き方改革</td><td>•多様な働き方の実現【産業】</td><td>•場所を選ばない働き方が増えることによるより利便性や各種補助率の高い自治体への若者・子育て世代の流出【人口】</td></tr>
<tr><td>リニア中央新幹線、京奈和自動車道、中和幹線道路等の広域交通網の整備</td><td>•利便性の向上や交流人口の拡大【人口】【産業】</td><td>•東京・大阪等の都市部へのヒト・モノ・カネの流出の加速化【人口】【産業】</td></tr>
<tr><td>強み（S）</td><td>【産業】
•多彩な歴史文化資源（大神神社、長谷寺、談山神社、纏向遺跡など）資源の存在
•地域主体による取組み体制の構築
•NAFIC、芸術家村の立地
【健康･福祉】
•保健福祉センター「陽だまり」の整備による妊娠・出産・育児の切れ目ない支援や地域包括ケアシステムの構築、救急医療体制の充実
•子育て支援として就園・就学の援助や乳幼児医療助成が充実（保育所の待機児童なし）
•医療施設の充実（居住地内の一般診療所数が高水準、人口 10 万人あたり病院数が奈良県と比較し高い）
【生活･都市】
•「新桜井消防署」の整備や自主防災組織の存在による「防災」「減災」に対する体制の構築</td><td colspan="2">■成長（強みによって機会をさらに活かすために必要なこと）
•観光、子育て、福祉、医療等の桜井の強みを活かした広域圏での地位の確立【産業】【健康・福祉】【生活・都市】
•大神神社参道周辺の活性化の起爆剤となる交流拠点施設の整備（民間活力の導入）や沿道への商業施設の誘致、まちなかでのイベント開催等による地域のにぎわい創出【産業】
•長谷寺や纏向遺跡等の歴史文化資源周辺における来訪者の受け入れに関する環境整備による桜井市内での滞在型観光の拡大（交流人口の拡大）【産業】
•国内のみならず、外国人観光客をターゲットとした多彩な歴史文化資源に関する情報発信の推進【産業】</td><td>■回避（強みによって脅威を回避･克服するために必要なこと）
•山辺の道などの歴史に裏付けられた歴史文化資源や奈良県芸術家村等の施設を有する周辺自治体との観光を軸とした広域連携の強化（観光のパッケージ化）【産業】
•NAFIC 整備を契機としたガストロノミーツーリズムなどの「食」や「農」をテーマとした新たな産業の創出（人が創り出す産業の創出）【産業】
•保健福祉センター「陽だまり」を拠点とした妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援や保育所・学童の充実など桜井ならではの手厚い子育て支援による子育て世代の流出抑制、定住・移住促進（『子育て、医療・福祉、健康トライアングル』の形成）【人口】【健康・福祉】
•桜井団地の更新（子育て施設や高齢者支援施設等の整備）や桜井駅周辺でのバリアフリー化の実施（『人にやさしいネットワーク』の形成）等による多世代居住のまちづくりの推進【人口】【健康・福祉】
•新桜井消防署を核とした「陽だまり」「新庁舎」「中央児童公園」との連携による防災力の強化（『安全・安心トライアングル』の形成）【生活・都市】</td></tr>
<tr><td>弱み（W）</td><td>【地域経営】
•義務的経費の増加に伴う投資的経費の減少
•公共施設の更新等に係る経費の増加
【産業】
•三輪そうめん、皮革産業等の特産品の認知度不足
•桜井を代表する木材産業の衰退
•従業者数 1 人あたりの製造品出荷額等の低下（奈良県平均より低い）
•空き店舗の増加等による桜井駅前の活力低下
【教育･生涯学習･交流】
•小学生の学力が全国平均を下回っている（奈良県全体）
【生活･都市】
•市街地の拡大・拡散（都市の低空化）
•市街地における空き家・空き店舗の増加
•自家用車の依存による公共交通の維持・確保が困難
•河川周辺部での浸水の想定、長谷寺周辺での土石流危険区域や土石流危険渓流の想定</td><td colspan="2">■改善（機会を逃さず弱みを改善するために必要なこと）
•公民連携や AI、IoT の活用などによる効率的な行政サービスや公共施設マネジメントの推進【地域経営】【生活・都市】
•ゴミ処理の広域化、水道事業の県単一化等による広域行政の推進【地域経営】
•ふるさと納税、そうめんサミット等のイベント、地域ブランド認定推進事業等を通じた特産品の認知度向上によるブランド化の強化（地場産業の競争力の強化）【産業】
•環境に配慮した循環型社会の創出（木質バイオマス発電、木の駅プロジェクトの実施、環境税の導入による木材産業の振興）【産業】【環境】
•広域交通ネットワークの形成を契機とした新たな企業誘致【産業】
•桜井駅前をはじめとする拠点への複合的な都市機能の誘導、既存ストックの活用、民間活力の積極的な導入による活性化【産業】【生活・都市】
•中山間地域におけるシェアオフィスなどの拠点の整備による新たな産業（クリエイティブ産業等）の創出【産業】
•グローバル化や高度情報化の進展に伴う英語教育や ICT 教育の充実に伴う学力の向上【教育・生涯学習・交流】
•市街地における拠点の形成、中山間地域における小さな拠点の形成、拠点周辺への居住の誘導、公共交通の再編による多極ネットワーク型のまちづくりの推進【生活・都市】</td><td>■改革（最悪の事態を招かず弱みを克服するために必要なこと）
•自然災害に関する対策の強化（防災応急対策や復旧対策を確実にするための地域ぐるみでの積極的な取り組みや応援・協力体制の確立）【生活・都市】</td></tr>
</table>

■将来都市構造イメージ


奈良
天理
田原本
上之郷
周辺
纒向遺跡
周辺
長谷寺周辺
大神神社
参道周辺
近鉄大阪線
宇陀
粟殿周辺
大福周辺
橿原
桜井駅周辺
安倍
周辺
談山神社
周辺
明日香
吉野
【凡例】
都市機能誘導区域
（将来、都市機能を積極的に誘導する区域）
居住誘導区域
（将来、居住を積極的に誘導する区域）
中心拠点
地域拠点
観光拠点
生活環境の維持のための公共交通の確保
市内の観光拠点を結ぶ公共交通ネットワークの構築
歴史・文化が主テーマの観光に関する広域連携
都市機能に関する広域連携
林業を中心とした産業に関する連携